

平成21年度 第2回 第4次芦屋市総合計画アドバイザー会議 会議録

日 時	平成22年2月12日(金) 19:00 ~ 21:20
会 場	北館2階 会議室3
出席者	会 長 今川 晃 副 会 長 安田 丑作 委 員 稲澤 克祐 勝見 健史 小浦 久子 松井 順子 事 務 局 西本 賢史(行政経営担当部長) 米原 登己子(行政経営担当課長) 山川 範(行政経営課主査) 山内 健(行政経営課主査) 長谷川 俊輔(行政経営課職員)
欠 席 者	菅 磨志保 委員
会議の公表	公 開 非 公 開 部分公開
傍聴者数	0 人

1 会議次第

- (1) 開会
- (2) 議題
  - 基本構想・基本計画素案について
  - 第4次芦屋市総合計画の原案作成について
  - 市民会議全般を振り返って
- (3) その他
  - 次回開催について
  - 総合計画審議会の委員就任意向について
- (4) 閉会

2 配布資料

- 第4次芦屋市総合計画アドバイザー会議名簿
- 座席表
- 第4次芦屋市総合計画アドバイザー会議設置要綱
- 次第
- 市民会議における基本構想素案作成の流れ
- 資料1 第4次芦屋市総合計画基本構想素案
- 資料2 第4次芦屋市総合計画基本計画素案
- 資料3 第4次芦屋市総合計画の原案作成について(案)
- 資料4 総合計画市民会議アンケート調査結果報告書

### 3 審議経過

#### (1) 議題 : 基本構想・基本計画素案について

##### 議題 : 第4次芦屋市総合計画の原案作成について

「市民会議における基本構想素案作成の流れ(当日配布)」、「資料1 第4次芦屋市総合計画基本構想素案」、「資料2 第4次芦屋市総合計画基本計画素案」、「資料3 第4次芦屋市総合計画の原案作成について(案)」の順に、資料に沿って、基本構想・基本計画素案を作成した経緯と、今後、この素案を基に原案を作成していくにあたっての基本的な考え方、進め方を事務局が説明した。

(今川会長) 議題 と議題 については、意見の重複も想定されるため、一緒に審議したい。まず、委員一人ひとりに感想を伺っていききたい。

(松井委員) 市民会議で携わった保健医療福祉部会では、高齢化の課題に加え、市民病院の課題が非常に多く取り上げられた。市民病院の課題は芦屋市にとって非常に重要な課題であることは間違いないが、時に運動論のようになり、会議の中でコントロールすることが難しく戸惑いを感じるがあった。また、高齢者と少子化の連携について議論を深めたかったが、部会の回数・時間が足りず、課題として残ってしまった。

市民会議の議論は、経験則を基にしたものがどちらかといえば多かったため、「もっと地域に入って行って自分達で調査する」といったこともあったほうがよかったと思う。また、自分達のまちに誇りを持つことはいいが、時に「上から目線」を感じるがあったため、そのあたりの軌道修正は必要だと感じている。

(小浦委員) 率直な感想としては、市民会議でせっかく出てきた「キラッ」と光る発想やまちの見方が構造化してまとめていくうちに、ふつうの表現になってしまった。市民会議で出てきた意見が全て正しいわけではないが、出された意見をうまく価値づけしきれなかったところがあったと感じている。

あと、基本計画素案を作成する際に基本構想の「10年後の姿」を組み替えているところがあるので、このように基本構想素案の体系を変更することについては、市民会議の了解が必要ではないか。

(安田委員) 基本構想の内容を変更したわけではなく、項目を編集したということなので、市民会議へは報告で足りると思う。ただし、わかりやすく報告する必要がある。基本計画素案には「1-1」から「6-2」までの16個の受け皿があるが、それと基本構想の「10年後の姿」の数が一致していないので、基本構想と基本計画がいかにして結びついているのかを、丁寧に説明する必要がある。

(事務局・米原) 市民会議に報告する際に、基本構想と基本計画をいかにして結びつけたかを説明する。

(安田委員) 市民会議に報告する際には、「将来像」から「施策目標」までの一覧表(例えばA3の用紙にまとめたもの)を一緒にお送りするなど、より丁寧な説明が必要である。一覧表は、今後の事務局の作業の中でも必要になるものであると考える。それぞれの部会で似たような議論をしてきたところもあり、言葉の重複も想定されるので、常に一覧表で確認できる状態にしておくべきではないか。また、その際には、新しく加わったものが一目でわかるようにしておく必要もある。

(事務局・米原)わかりました。

(今川会長)市民会議への報告についてはそのような方向で進めることとし、続いて稲澤委員、よろしく申し上げます。

(稲澤委員)まず、「資料4 総合計画市民会議アンケート調査結果報告書」の中でも指摘がありましたが、部会にあまり参加できなかったことについて、お詫びを申し上げたい。

私からは「資料3 第4次芦屋市総合計画の原案作成について(案)」について3点ほど申し上げたい。

1点目は、「人口フレーム」についてである。この中で「目標とする人口フレーム」とあるが、これは何をもって言っているのか。「生産年齢人口を増やしたい」などの気持ちはわかるが、個人的にはこのような「目標とする人口フレーム」といった考え方には反対である。「現状をもとに単純にシミュレーション(推計)すると10年後はこうなります」というのが「人口フレーム」だと考える。

2点目は、「財政フレーム」についてである。これについては「現状をもとにした単純なシミュレーション(推計)」と「基本計画の実施を加味したシミュレーション(推計)」のどちらになるのか。「財政フレーム」については、そもそも「載せるか否か」という議論があり、とりとめのない話にはなるが、載せると計画の説得力が増すが、一方で数字の一人歩きが危惧されるという諸刃の剣になってしまうため、慎重な検討を要している。

3点目は、「重要課題」についてである。「直面する重要課題」については「少子化、高齢化」が挙げられているが、例えば「環境」など、例示はもっと多くなり、より広い検討が必要ではないか。また、「基本構想全体から読み取れるキーワード(重要課題)」については、「文化力」「情報力」「協働力(市民力)」が挙げられているが、これと「直面する重要課題」の住み分けがよくわからないという印象を持った。

(事務局・米原)1点目の「人口フレーム」の中の「目標とする人口フレーム」については、特に強調したかったものではない。現在行っている人口推計の中では、第4次芦屋市総合計画の計画期間中に本市は人口のピークを迎え、その後、減少に転じていく。マンション化を抑えるなど、人口増とは反対の政策を行っているところもあり、「目標とする人口フレーム」については模索しているのが現状であり、アドバイザー会議からのご意見をいただきながら検討していきたい。

2点目の「財政フレーム」については、今までの総合計画では、「財政的に非常に厳しい」という表現に止め、フレーム自体は出してこなかった。

最新の長期財政収支見込でも、非常に厳しい見込が出つつあり、「あれもこれもやる」という状況ではない。総合計画に「財政フレーム」を載せるか否かはアドバイザー会議からのご意見をいただきながら検討していきたいと考えている。現状では非常に出しにくい面もあるが、内部では引き続き検討していきたい。

(稲澤委員)私が携わった枚方市では、最後の最後に「財政フレーム」を総合計画に盛り込んだ。ただし、枚方市は、基本構想と実行計画(基本計画に実施計画のようなより具体的な内容を盛り込んだもの)の2層構造をとったため、実現可能性の担保として「財政フレーム」が必要との判断に至った。芦屋市にお

いては、今までのような「基本構想・基本計画・実施計画」という3層構造をとるのであれば、載せる必要はないかもしれない。また、載せるとしても「現状をもとにした単純なシミュレーション(推計)」でよいと思う。

(事務局・米原)「財政フレーム」については、非常に出しにくい面もあるが、内部では引き続き検討していきたい。市民会議の中でも「お金がない場合はどのような工夫ができるか」ということが議論され、更なる都市機能の充実も求められている。芦屋の魅力を守り、育てていくために、どのような見込みをたてられるかが市長以下、市内部での大きな課題になっている。

(稲澤委員)正確な「財政フレーム」を作成することは確かに難しい。芦屋市の場合は法人市民税の割合が少なく個人市民税が占める割合が非常に多いため、まだシミュレーションの安定性は確保しやすいが、それでも10年という期間は長すぎる。

(事務局・米原)本市では高齢者の方の個人市民税の納税額が多いという特徴があり、今後の少子化、高齢化の進展により、この構造にも大きな影響があることが予測される。そのような状況下でも「いかに芦屋の個性・魅力を発信し続けるか」が非常に大きな課題であり、これから原案作成の中で特色を出すか、どうやってそういった内容を盛り込んでいけばよいか悩んでいる。

(小浦委員)「人口と税収のバランスがとれていること」が芦屋らしさだと思うが、これは総合計画の中に表しにくい。

(事務局・米原)本市では、長期でお住まいになられている方ももちろんいらっしゃるが、人の入れ替わりが多い面がある。そのような状況の中で、「上手に動いて欲しい」というか、良質な住宅が供給され続け、それに対する需要もあってうまく回転し続けるということが大事である。

また、工場の誘致というわけではなく、住宅と調和できる法人の誘致や集積といった施策も必要ではないかとも思っている。市域の各地域で特徴が現れ、それをもって「芦屋らしさ」を表せないか。

(今川会長)稲澤委員が3点目として指摘された、「基本構想全体から読み取れるキーワード(重要課題)」と「直面する重要課題」の住み分けについても議論しておきたい。

(事務局・米原)今の総合計画では、「直面する重要課題」のみを3つ述べているが、第4次芦屋市総合計画においては、より長期的な視野で、「こういう方向に向かっていきたい」ということを打ち出したい。「基本構想全体から読み取れるキーワード(重要課題)」についても「重要課題」という単語を使ってしまったのがよくなかったかもしれないが、こちらのほうは、「推進力」もしくは「縦串・横串的なもの」という意味で考えている。

(小浦委員)稲澤委員からは、「直面する重要課題」に関し、「環境」という視点も指摘いただいたかと思うが、私は「環境」も「文化」だと思う。環境に負荷をかけないことは重要だが、それであれば何でも正しいというのではなく、例えば景観を大事にする方法を選択するなど、他と違う環境に寄与する選択肢を選ぶことで「芦屋らしさ」を語るができると思う。

(松井委員)「文化力」「情報力」「協働力(市民力)」という3つのキーワード(重要課題)については、市民会議から出てきたものであり、尊重する。ただ、「情報力」という言葉はありふれたものであり、例えばアナログ的なものなど、もう少し「芦屋らしさ」というか「芦屋の持ち味」を引き出す工夫が必要で

はないか。

(事務局・米原) 市民会議の中では、ITの話も出たが、総じて言うと、「欲しい時に欲しい情報が手に入る」というか、「活動を促す」もしくは「人と人とを繋げる」情報を、多様な媒体により、わかりやすく提供することが大切であるという意味で、受け取っている。

(今川会長)「芦屋らしさ」という言葉は、よく言われているが、なかなかキーワードが出てこないものだという実感がある。

(小浦委員)「市民力」はおもしろい言葉だと思う。都市規模が「小さい」ことのメリットとして、「市民」感覚を共有しやすい。他のまちにはない「芦屋らしさ」としての可能性を感じる。

(安田委員)この基本計画素案では、基本構想と同じ期間(10年)に見える。基本構想の最大の特徴は、主語が「We」であることである。行政主導でつくったものではなく、協働により作成され市民と行政が共有しているものであり、この点は高く評価している。これを受ける立場の基本計画素案は、行政の計画であるが、今載せられている指標ではチェックのしようがなく、せっかくみんなが参加した意味が薄れてしまう。「最初(前期)の5年でここまで伸ばす」、「最初(前期)の5年はここを頑張る」といった目標的なものを打ち出すことにより、実体の計画としての「芦屋らしさ」が出てくるのではないか。

また、基本計画素案で、「行政が」という書き出しのところはよくないかもしれない。もっと「何ができるのか」という問いかけの中で「行政はこれをする」という形式であればよいが、基本構想と対比するとこのままではもったいない。基本計画素案の中に、「今の芦屋の現状認識」が書かれていないことも問題である。今の芦屋の危機的状況(一言で言うなら、芦屋が芦屋でなくなることをもっと発信し、市民と共有する必要がある。その上で、「こういう取組をすれば危機的状況を回避できる」という夢を託さなければいけない。「今が、V字とまではいかなくとも回復に向けた転換期であり、最初(前期)の5年ではこうする」というメッセージがあれば、そこに「芦屋らしさ」が生まれるわけであり、それなしでは単に「芦屋らしさ」という言葉だけが踊ることになる。

(小浦委員)住んでいる人にどう伝えるかは確かに重要なことである。住民の多くが入れ替わった芦屋市においては、特に新しい住民に今の危機的状況を正しく認識してもらう必要がある。

(安田委員)先ほど申し上げた「メッセージ」については、市民では作りきれないところもあるので、まずは事務局で用意し、発信することによりみんなのものにするのが望ましい。

(事務局・米原)基本計画素案は所管課と調整してつくったものでもなく、「メッセージ」の発信までは至っていない。危機的状況は具体的には書きにくいですが、原案作成の中で検討できればと考えている。

(安田委員)原案作成の中で「現状と課題」や「社会潮流」に触れる際に、過去から現在に至るまでに、芦屋市において変化してきたことなどを例示的に示すと少しは書きやすいかもしれない。その中に財政の問題も盛り込めばいいのではないか。それと、基本計画素案の後半で協働に関することが書かれているが、基本構想素案の作成自体が協働であり、このことはもっと誇りを持ち、「協

働」という言葉を大事にしていきたい。

(勝見委員) 基本計画素案の中で1点誤りがあるので今指摘してよろしいか。P2「基本構想素案との関係」の中で、「10年後の姿：次」と「基本計画素案：1-4」が結びついているが、これは「10年後の姿：次」と「基本計画素案：1-4」の結びつきの誤りであるので、訂正していただきたい。

また、基本計画素案を見ていると、いろんな分野の話がそれぞれ絡みあっているところがあり、その結果吸収されて見えなくなっている部分がある。具体的には、「10年後の姿：次」が「基本計画素案：3-1」に吸収されているが、その結果、「ボランティアやコミュニティを活かして間接的に子どもを育て、見守る」という「ボランティアやコミュニティのあり方」に対する思いが消えてしまっている。このような「消えてしまった思い」は原案作成の中でどこかの枠にまた流し込むことができるのか。

(事務局・米原) そういったものは、職員会議で受け止めきれなかったところだと思う。他にもあるかもしれない。原案作成の中で再度表に出していきたいので、お気づきのものがあれば随時ご指摘いただきたい。

(勝見委員) 基本計画素案の中で、「進行を確認する指標」が列挙されているが、その表現が「上昇・増加」といった右肩上がりのものばかりであり、もっと、例えば「継続・多様化」といったクオリティ(質)を求めるものも含まれていていいのではないか。「全体の数」ばかりで測るのではなく、もっと「エピソード的」に、「パフォーマンスとして質的な成果があった」というものを盛り込む視点が必要ではないか。

(事務局・米原) 職員会議の中でもそういった議論は行ったが、結果このようになった。

(今川会長) 「進行を確認する指標」については、全体的に「結果を評価するもの」と「成果を評価するもの」が混在してしまっているのが気になる。

(事務局・米原) 「成果を評価するもの」を意識していたが、結果として「結果を評価するもの」も混じってしまったので、原案作成の中で修正したい。

(安田委員) 基本計画素案の書き方としては、まず「目指す姿(状態)」を書き、次に「取り組む内容」を書いたほうがいい。また、「取り組む内容」は行政がするものだけを書くのではなく、市民がするものも含めて書いたほうがいい。そして最後に、チェックするための「進行を確認する指標」を書くという順番のほうがよいのではないか。また、このように「進行を確認する指標」を書くのであれば、その時点で「成果をどのように評価するか」ということも想定しておく必要がある。神戸市では、「行政が自己評価したものを外部委員がチェックし、そのコメントを公表する」といった取組を行っているが、芦屋市くらいの規模であれば、その中に市民が入っていくことも可能ではないか。「進行を確認する指標」を出すのであれば、「政策評価をどのように行うか」もセットで提示する必要があるし、ここまできたら市民も入って取り組んで欲しい。そういう意味では、5年という期間は「つくった人に責任を持って評価してもらおう」ということから考えるとちょうどよいのかもしれない。

(事務局・米原) 市民会議からも、「評価には市民も加わるようにするべき」というご意見をいただいている。

(稲澤委員) 施策目標93「市が市民力を活用している」は、「6-2」ではなく、「4-1」に入るべきではないか。また、表現的にも「市民力を活用している」

というのは「上から目線」であるので修正すべきだ。

- (事務局・米原) わかりました。職員会議の委員は全ての所管から出てきているわけではなく、また、それぞれが「強調したい思い」もあったので、どうしても弱いところがある。原案作成の中で修正していきたいので、その他の点においても、どんな細かいことでも構わないので、お気づきの点があれば、随時ご指摘いただきたい。
- (勝見委員) 今後の原案作成の中で、所管課との調整が入ってくると思うが、その場合は、「テーマがいくつか設定されてそれに関連する所管課が集まる」のか、「一つひとつのテーマにパーツとして縦割りの的に所管課に割り当てられる」のか、どちらになるのか。時間的なことが許されるならば、「テーマがいくつか設定されてそれに関連する所管課が集まる」ほうがいいような気がする。
- (事務局・米原) 「一つひとつのパーツとして所管課に割り当てる」ことも、いったんは必要だと思う。その上で、「いくつか設定したテーマに基づき関連する所管課が集まる」ことも検討するが、今までのような「6つの部会」といったことにはならないかもしれない。進め方についてのアドバイスがあればいただきたい。
- (今川会長) 「課題解決型」という意味では、「テーマがいくつか設定されてそれに関連する所管課が集まる」という形であるべきだ。「一つひとつのパーツとして所管課に割り当てる」だけでは、できあがりはそれらが寄せ集まって合体しただけのものに終わることが危惧される。
- (事務局・米原) テーマを設定するにあたっては、先ほどから議論してきた「芦屋らしさ」をどう設定するかが問題となってくる。
- (小浦委員) 基本計画素案は、「目の前のことで書かれている」という印象を受ける。基本構想素案の「将来像」から基本計画素案の「施策目標」との間に少しギャップを感じてしまう。また、基本計画素案の「基本目標」と「施策目標」の繋がりが見えにくい。例えば、「施策目標15：市民が環境への負荷の低減に配慮して生活している」ことへの「取り組む内容」として「ゴミのリサイクルを推進する」が挙げられているが、「ゴミの排出量が減れば、なぜ、環境への負荷が低減されるのか」が見えにくい。この「繋がりを意識すれば、もっと違う指標のとり方も考えられるのではないか。
- (事務局・米原) 「進行を確認する指標」は、「取り組む内容」と対になるようセットで考えた。「繋がりが見えにくいのは、現状認識などの文章がなく、項目だけが単に並んでいるからだろうか。
- (安田委員) 「施策目標の15, 16, 17」は内容が一緒に主語が違うだけだが、このような書き方をすると他の「施策目標」も全て同じことになってしまう。「取り組む内容」で分けて書くのはいいが、「施策目標」レベルで、このように分けて書くのはよくない。また、「施策目標」を一つひとつ見ても全体との関係がわかりづらいので、やはり、「将来像」から「施策目標」までの一覧表が必要であり、それを見ながら検討していく必要がある。
- (小浦委員) また、「施策目標」には細かい事業から大きな施策まで様々なものが混じっているため、わかりにくくなっている印象を受ける。
- (事務局・米原) 原案を作成する中で、現状認識などの文章を足していき、説明を補足していく。「基本目標」や「施策目標」の再整理も必要であると考えている。また、基本構想でもそうだが、基本計画で「どれくらい細かいことまで書く

か」は、事務局でも悩んでいる。「簡潔でわかりやすく、尚且つ薄く」ということも考えた時に、一方で「進行を確認する指標」などを盛り込んでいく中、「できあがりのイメージ」をどのようにすればよいか悩んでいる。何かアドバイスがあればいただきたい。

(稲澤委員) 基本計画は「施策集」である。施策とは、例えば5年などの限られた期間の中で、「いつまでに、何を、どうする」という明確なターゲットを持ったもののことである。したがって、「ゴミのリサイクルを推進する」だけでは「いつまでに、何を、どうする」かがわからないため、これは施策とは言えない。順番としては、「取り組む内容」を、施策となるようにより具体的に書き、その次に、それをチェックするための「進行を確認する指標」を書くべきである。今の基本計画素案の状態では、「取り組む内容」の大きさにばらつきがあるため、それと対になっている「進行を確認する指標」の大きさにもばらつきが出てしまっている。「取り組む内容」が施策としての要件を満たさない限り、基本計画の形にはなっていない。

(安田委員) 基本計画は、評価して次年度の予算に反映できるものでなければならない。つまり、組織体制や予算配分を見直せるものである必要がある。また、この基本計画素案は網羅的すぎるので、絞らないと5年では無理がある。内容の一部を基本構想に移すなどの手法も検討していいのではないか。「次(後期)の5年に回せるものは回す」といった濃淡をつけることも検討できるのではないか。

(事務局・米原) 毎年評価するために指標を確認するのであれば、細かい大きさの指標ではなく、もう少し大きいレベルの指標が必要なのか。

(小浦委員) 「進行を確認する指標」と「取り組む内容」が1対1ではやはり無理がある。「基本目標」を進行管理する指標のほうがよいのではないか。それがうまくいっていなければ「施策の内容や組み立て」を見直す、ということもできるようにする必要があるのではないか。

(事務局・米原) 検討します。

(今川会長) 重点的に実施する部分については、ある程度細かくなるのはいたしかたないと思う。あと、私が担当した市民活動部会の内容は、市民会議の趣旨は確実に汲み取り、市民活動として残さないといけない部分は残す必要があるが、基本的には安全安心、保健医療福祉、次世代育成といった他分野の中に、原案作成の中で入っていく(吸収される)ものと考えている。

(事務局・米原) 貴重なご意見としていただきます。

(今川会長) では、予定の時間にもなっているので、細かい点でも気づいたことがあれば、随時事務局までメールなどで連絡することとする。今後の流れとしては、体系的にわかりやすく整理した、「将来像」から「施策目標」までの一覧表を市民会議に提示し、いただいた意見と、今日出てきた意見を反映するための修正を加える、ということによいか。

(事務局・米原) わかりました。修正は、「素案の修正」ではなく、「原案を作成する中で」という認識によいか。

(今川会長) 市民の方に意見を伺い、それが「どういった形で原案作成の中で変化していったか」がわかればよいと思う。あと、市民の方からの「おかしいのではないか」という指摘に対しては、市の方針として説明ができればいいのではないか。時間がない(スケジュールがタイトである)ことを前提に申し上げ

ている。

(事務局・米原)わかりました。

(2) その他 : 次回開催について

: 総合計画審議会の委員就任意向について

(今川会長) 3月にもう一度アドバイザー会議を開催するかどうかを決めたい。事務局としてはどうか。

(事務局・米原) 3月の後半にもう一度開催してご意見をいただきたい。粗い形というか、内部的に未調整の事務局(案)を提示し、ご意見を頂戴したい。

(安田委員) 1点だけ補足しておきたい。市民からの要求型の表現になっているところがあるので、「行政と市民が一緒になってやる」ということをはっきり明示したほうがいい。計画を推進していく上で、「協働のあり方」というか「力の合わせ方」というか、そういったものを表に出しておいたほうがいい。これからは「自立した市民」が求められる。

(事務局・米原)わかりました。

(今川会長) 市民と共有できる「バイブル」にしていきたい。

(事務局・米原)わかりました。次回の開催については、改めてメールで日程調整させていただく。あと1点、総合計画審議会についてお知らせしておきたい。総合計画審議会は、総合計画の原案を審議していただく本市の附属機関であるが、市議会議員、市民会議の代表者に加え、このアドバイザー会議の委員の皆様にもご就任いただきたいと考えている。別途、個別にお伺いしますので、どうぞよろしく申し上げます。

4 閉会

(今川会長) 以上をもって、第2回第4次芦屋市総合計画アドバイザー会議を閉会する。

以 上